



【1】一種研開催報告

5月11日(木)、12日(金)に一種研が沖縄県男女共同参画センター(ていりる)を現地会場とするハイブリッド形式で開催されました。今回は、A・P研チュートリアル講演、IEEE AP-S Fukuoka Chapter特別講演を含め18件の講演がありました。

A・P研チュートリアル講演では、NTTドコモの井上祐樹さんより、屋内用ミリ波マルチセクタアンテナ、アンテナ分離型ビームフォーミング、デジタルとアナログを組み合わせたハイブリッドMIMO基地局など、2030年頃の商用化を目指して進められている最新の基地局アンテナ技術を紹介いただきました(写真1)。



写真1 A・P研チュートリアル講演
(左から、袁次期副委員長、榑原次期委員長、山田委員長、井上講師、藤元副委員長)

Fukuoka Chapter特別講演では、福岡工業大学の松島章先生より、平板格子における光波とテラヘルツ波の表面プラズモン共鳴、と題して講演いただきました。負の誘電率をもつ貴金属表面やグラフェン表面における荷電粒子(プラズモン)の挙動について、図やアニメーション、数値計算結果を多数示していただき専門外の私にもわかりやすく説明いただきました。

◆また懇親会を開催できました。

コロナ感染拡大をうけて、約3年開催できなかった懇親会ですが、4月の研究会に引き続き、沖縄でも懇親会を実施できました(写真2)。研究会の後の懇親会は、単なる飲み会ではなく、対面でいろいろな情報交換ができる貴重な機会です。今後も安定して開催できることを祈ります。



写真2 懇親会

【2】A・P研執行部退任者の挨拶

2020年度のA・P研執行部は下記の体制でした。

委員長: 山田寛喜(新潟大) 副委員長: 藤元美俊(福井大)

幹事: 道下尚文(防衛大)、紀平一成(三菱電機)

幹事補佐: 村上友規(NTT)

2023年6月から新体制になりますが、新体制は次号で紹介していただくこととし、今回は退任される方々のご挨拶をお送りします。

[山田 委員長] コロナ禍の2年間でしたが、皆様の温かいサポートにより2年間の任期を終え退任となります。研究会開催形態も完全オンラインから少数の現地参加者からなるハイブリッドを経て、昨年度後半より現地参加者も増えたハイブリッド開催と開催形態もめまぐるしく変化した2年間でしたが、その都度状況に適応し、少なくともA・P研の活力を維持、できれば発展させるべく、執行部一丸となって取り組んで参りました。皆様のお力添えで様々な状況下でも依然とほほ遜色のない企画運営ができたこと、御礼申し上げます。この間培われたオンライン、ハイブリット開催のノウハウは、コロナ後の新しい研究会運営を活性化するものと期待しております。

これから榑原委員長による新執行部体制が始まります。コロナ後の新たなA・P研として、様々な取り組みがあるものと期待しております。A・P研は皆様の研究で支えられております。今後も皆様とともにA・P研の更なる発展に寄与していきたいと考えております。引き続きA・P研をよろしく願いいたします。

[藤元 副委員長] 各種委員会の委員長はいくつか担当させていただきましたがA・P研執行部への参画は初めてであり、たくさんの貴重な経験をさせて頂きました。特に、安定したハイブリッド形式の研究會運営方法を確立できたことはうれしく思います。今月で副委員長退任となり、「A・P研からのお知らせ」執筆の任から解放されることはホッとしていますが、「戯言」が最後となることは、実はちょっぴり寂しい思いです。2年間、ありがとうございました。（戯言が長いので挨拶は短めにしておきます。）

[道下 幹事] コロナも5類に移行する中、この度幹事を退任となります。1年目は完全オンライン開催でスタートした研究会運営も、2021年11月の長崎からは現地開催が始まりました。ハイブリッド機材の準備に当初は時間を要していましたが、最近では15分程度で完了するまでになりました。2年目には濃密な議論の場も提供し始め、執行部の皆様のご協力のもと、コロナ前の運営にほぼ戻すことができました。特に、先輩幹事の皆様には、温かい励ましのお言葉やご指導をいただきました。ありがとうございました。今年からは国際交流の場として国際二種研の現地開催も再開されます。現幹事団を全力でサポートしていきたいと思っております。2年間ありがとうございました。

【3】副委員長の戯言

◆「アンテナ・伝播研究会の特徴は何ですか？」

最近話題のChat GPTに上記の質問をしました。すると、以下の答えが返ってきました。

[Chat GPTの回答](回答文そのまま)

アンテナ・伝播研究会は、日本のアンテナと伝播に関する研究団体であり、以下のような特徴があります。

1. **多様な分野にわたる研究:** アンテナ・伝播研究会は、アンテナと伝播に関する多様な分野にわたる研究を行っています。例えば、アンテナの設計、電波伝搬の解析、通信システムの最適化など、幅広い分野での研究が行われています。
2. **国内外との協力関係:** アンテナ・伝播研究会は、国内外の研究機関や企業と協力関係を築いています。国際会議の主催や共同研究、研究発表の場など、国際的な研究交流に積極的に取り組んでいます。
3. **研究成果の普及:** アンテナ・伝播研究会は、研究成果を広く普及させることにも力を入れています。年次大会や研究会、学術雑誌の発行など、様々な場を通じて研究成果を公開し、技術の発展に貢献しています。
4. **学術的な信頼性:** アンテナ・伝播研究会は、日本のアンテナと伝播に関する研究において、学術的な信頼性が高い団体として知られています。研究発表や論文審査など、厳格な学術審査を実施しており、高い品質の研究成果を生み出しています。[Chat GPTの回答ここまで]

A・P研関係者が書いたような、ものすごくうれしくなる内容ですので、あえて全文載せました。まるで結婚式の祝辞です(笑)。こんな答えを返すChat GPTもすごいですが、こんな答えを返させるA・P研もすごいですねえ！！

◆機内表示は中途半端でした。

小松空港から沖縄に向かう飛行機の機内ディスプレイにTime of Arrival(到来時間?)が表示されていました(写真3)。等化器の研究ならTOAだけでいいですが、アレー信号処理の研究に携わる者としては、是非、DOA(Direction of Arrival, 到来方向)も表示してほしいところでした。



写真3 機内ディスプレイ

◆似て非なるもの(その2)

「戯言」の読み方ですが「たわごと」と「ざれごと」の二通りがあります。

- ・戯言(ざれごと):「ふざけた内容の話」や「どうしようもない話」。おどけた様子が意味合いに含まれ、相手が笑って受け止めるような話。
- ・戯言(たわごと):「中身の無い話」や「いい加減な発言」。話の内容によっては相手を怒らせてしまう可能性もある。(出展: マイナビニュース)

この2年間の副委員長の戯言は「ざれごと」のつもりで書きましたが、「たわごと」と受け取られてしま

ったことがあればお詫びいたします。また、「戯言」と似た漢字を使う言葉として「虚言(きょげん)」があります。虚言は「嘘を言うこと」「嘘の言葉」という意味で、「人を欺く目的で言う嘘」のような悪い意味を表すそうです。「戈」がないだけで、かなり意味が違いますね。けっして「副委員長の虚言」を書いたことはなかったと思っていますが...

次号からは、新副委員長の袁先生に託すこととなります。「A・P研からのお知らせ」は結構プレッシャーを感じます。あまり無理せず執筆いただき、みなさまも暖かく読んでいただければと思います。2年間ありがとうございました。

〈問い合わせ先〉

アンテナ・伝播研究専門委員会副委員長 藤元美俊 (福井大学)

E-mail : ap_ac-chair@mail.ieice.org (A・P研執行部のメールアドレス)

AP-NET : A・P研の最新情報を毎月メールにてお届けします!! 登録はA・P研HPにて

A・P研HP : <https://www.ieice.org/cs/ap/>

